

なるものです、總べての大文學には想像の力を缺くことが出来ない、有名なホメールの文學にしてもどの國の神話にしても近代の妙文傑作にしても悉く些少の事實を材料にして之を非凡な想像の力で以て着色したのである。つまり想像力の非凡な者の手になつたものほど、其文學上の効益が著大なのであります。併も之を想像の結果だから直ちに偽りを教へるものだといつて排斥しませうか。古い我國の神話や、遠い希臘の英雄時代の詩文はさて置いて、白髮三千丈 依憂如此 長といふ、何處に三千丈の白髮がございませう 鶯の凍れる涙今やとくらんといふ 鶯に涙が出ませうか、よし出るにしても涙が果して凍りませうか 併も吾々は之を偽りである、罪であるといつて排斥し去りませうか。

寓言や童話はなる程造り話です、或意味の虚偽です。併し之は彼の想像的偽、或は文學的偽りである以上は、たゞ其點だけで排斥し去ることは決して出来ない。高言重話は即、兒童文學である、幼年文學である。大人に文學の必要ある如く幼兒にも亦必要があるのです。

か様な考で寓言童話といふものを見て、さて其中で前に申した様な材料は取り除けたいと考へます。

大事を取り過ぐることに

ふみ子

幼兒は實に可憐なものでございます。また尤もかよわいものでございます。この可憐なる、かよわい幼兒に對しては、十分の愛情と、注意ふかい

保護とを與へなければなりません。けれども、若しあやまつて、あまりに大事を取り過ぎたり、愛に溺れたりなどいたしますと、幼児はこれがために大へん悪い影響をうけます。即ち斯様な取扱をされた幼児の普通は非常に我儘で、きゝわけがありません。また、すべて、身心の鍛錬といふことは少しも出来ませんで、何事に對しても勇氣がなく、卑怯で、依頼心が強うございます、そればかりではなく体力、智力の發達もよろしくありません。相互によく見ることでございますが、大事を取り過ぎる人は、一寸幼児が高い處から飛ひ下らんとしたり、また溝などまたがうといたしますと「そら怪我をする」、「あゝあぶない」など申しまして、幼児自身がとんだら、またいだりするのを許しません、直ぐに禁止するか、また、自ら

手を出して助けます。もとより幼児のことでございますから、自分の力もはからないうで、年上の人との眞似をして、無暗に高い處から飛ひ下りようと企つることもあります。随分危険な場所を自分獨りで歩もうとすることもあります。ですから、幼児の世話をする人は、よく氣をつけて、幼児が若し力不相應のことをしようとして企てましたならば、手早く禁止もし、助けも與へなければなりません。けれども其他の場合は、よく注意して放任し、幼児自身の働きに任せるがよろしいとおもひます。これは時として、不親切の様に見えることがありますが、幼児のためでございます。幼児に對する眞の親切でございます。高い處から飛ぶとか、溝をまたぐとかいふ様なことは大人の目から見ますと、實につまらぬことの様でございますか、幼児

に取つては、なか／＼さうではありません。丁度  
 大きい小供が器械體操をしたり、大人が六ヶ敷事  
 をすると同じ事で非常に身心が鍛錬されます。け  
 れども無暗に大事を取り過ぎて、幼児が折角しよ  
 うと思つた事を度々禁止いたしますならば、だん  
 々／＼心が挫かれまして幼児は自分で事をしようと  
 いふ心が少くなります。自分で身も心もはたらか  
 すことが少くなりますから自然に身心共に十分發  
 達いたしません。また、始終あぶない／＼といは  
 れますから、極々やさしい事でなければ手を出さ  
 なくなりません。困難辛苦までも胃して事をしよう  
 といふ勇氣はなくなります。無暗に助を與へられ  
 ますから依頼心がつよくなります。其影響するこ  
 とは決して少くはありませぬ。私は曾て二十七八  
 年の戦役後 ある兵士から次のやうな話をきかま

した。

「私はちよいさい時から、おぶない／＼といつて  
 育てられたものですから、まさかの時にどうも  
 氣あくれがいたして困りました」  
 これは私共がかかる／＼しく聞き過してならぬこと  
 ではありませんか。進むべきとさに進む勇氣の  
 ない者は、なすべきこと、守るべきことに對して  
 もまた勇氣のない者でございませう。

學 校 病

醫學士 長瀬復三郎

此中に數へらるゝのは近視、脊椎彎曲、消化不良、  
 頑固の頭痛、神經衰弱などです。統計上兒童が學  
 校に入つて後之等の病にかゝるものが澤山ありま  
 す。